

公益財団法人さんりく基金
令和4年度第2回理事会 議事録

1 開催の日時及び場所

- (1) 日時 令和5年1月18日(水) 午後2時00分から午後2時55分
- (2) 場所 岩手県盛岡市中央通一丁目1番38号 エスポワールいわて特別ホール

2 役員の現在数 理事10名 監事2名

3 出席者

(1) 理事

代表理事	八重樫 幸治	業務執行理事	鈴木 俊昭
業務執行理事	高橋 一志	理事	石川 義晃
理事	菅野 信弘	理事	熊谷 敏裕
理事	松田 淳		

(2) 監事

監事	及川 崇
----	------

(3) 事務局

事務局長	鈴木 俊昭	事務局次長	及川 有史
三陸DMOセンター長	高橋 一志	DMO事業部部長	高橋 利明
DMO事業部副部長	鈴木 静子	総務管理部副部長	佐藤 マチ子
事務局員	田村 優子	事務局員	川村 泉

4 欠席者

理事	青山 潤	理事	柿沼 正人	理事	後藤 均
監事	佐藤 修				

5 議長

代表理事 八重樫 幸治

6 決議事項

- 第1号議案 公益目的事業の統合について
- 第2号議案 令和5年度事業計画及び収支予算について
- 第3号議案 公益財団法人さんりく基金育児・介護休業等に関する規程の一部改正について
- 第4号議案 令和4年度第2回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について

7 議事の経過

午後 2 時 00 分開会した。

鈴木業務執行理事が理事現在数 10 名中、本人出席 7 名により、定款第 37 条に定める定足数を満たしており、本理事会は成立した旨を告げた。また、監事には理事会運営規則第 13 条の規定により、理事会に出席し、意見を頂くこととなっているとの説明があった。

続いて、八重樫代表理事から、あいさつがあった。

続いて、定款第 39 条第 2 項により、議事録署名人は八重樫代表理事、及川監事であることを確認し、以降の進行は、定款第 36 条の規定により、八重樫代表理事が行うこととなった。

報告「職務執行の状況について」

八重樫代表理事及び鈴木業務執行理事、高橋業務執行理事が執行状況を報告した。議長が、報告について質問、意見を求めた。

【菅野理事】

調査研究事業の採択事業 7 件のうち、岩手県水産技術センターの事業名が漠然としていて中身がどういったものなのか検討つかない。どういった研究内容なのか。

【田村事務局員】

事業名にある水産食品とはワカメのことであり、ワカメを加工するまでの過程で微生物等の異物が発生するという一方で、温度管理や保管方法など微生物の抑制に関する研究を行い、品質向上を目指すという内容である。

【熊谷理事】

新商品・新サービス開発事業において、私は商工会の者なのでよく知っている企業が採択されていて、農産品以外にも様々活用させていただき非常にありがたい。一昨年度や昨年度の採択は多かったが、今年度の採択実績がだいぶ少ないようだが、何か要因はあるのか。

【及川事務局次長】

助成事業については毎年、制度の見直しを行っているところであり、本事業では新しい商品の開発を求めているものであるが、商品そのものというよりは、パッケージリニューアルや広報などに比重を置いた申請も多くなってきた。今年度は対象事業を新商品開発という本来の目的に合うような形にしていっていった結果がこのような形になった。

【熊谷理事】

同じ商品でもデザイン次第で売れ方が変わることもあるのだが、それはそれで色々なところでやる機会はある。数多ければいいというわけでもない。三陸地域で新しい商品を出しながら、魅力をまた付けていくということで、そういう絞り込みはいいこと、理解できる。

その他発言はなく、議案の審議に入った。

第1号議案「公益目的事業の統合について」

議長は、第1号議案について事務局に説明を求め、及川事務局次長が説明した。

議長が、第1号議案について質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第1号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを可決した。

第2号議案「令和5年度事業計画及び収支予算について」

議長は、第2号議案について事務局に説明を求め、及川事務局次長が説明した。

議長が、第2号議案について質問、意見を求めた。

【熊谷理事】

コミュニティ活動については、「新商品・地域サービス開発事業」に統合ということであったが、今までの助成上限は80万円であるが、統合により、上限50万円になり、18件の予算枠の中で実施するという理解でよろしいか。人材育成については、具体的にはどのような整理か。

【及川事務局次長】

ご理解のとおり。また、これまで人材育成事業も助成事業として実施していたが、申請が極めて低調な状況になっている。来年度は「地域振興の担い手人材の育成」として、事務局の自主事業として対応することとし、新規に実施していきたい。

【熊谷理事】

仕事柄、新商品・地域サービス開発事業に目が行くが、事業統合した場合でも、今年度の実績からみると十分対応しうる。先ほどの説明にもあったように新商品に限るということであれば、それほど申請の数も出てこないとみられ、金額的にすごく圧縮されたわけではないということが理解できた。

【石川理事】

確認であるが、調査研究等事業、人材育成事業、助成事業について、来年度との比較のため、今年度予算額を教えて欲しい。

【及川事務局次長】

参考資料8ページをご覧ください。今年度予算と来年度予算の比較資料であり、調査研究等事業は今年度予算4,440万円余に対し、来年度予算は3,046万円余となっている。人材育成事業は今年度予算92万円余に対し、来年度322万円余となっている。助成事業は今年度4,382万円余に対し、来年度は2,641万円余になっている。

【石川理事】

全体としては、予算額が下がっている状況だが、上手くやりくりしているということで理解できた。

議長が他に質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第2号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを可決した。

第3号議案「公益財団法人さんりく基金育児・介護休業等に関する規程の一部改正について」

議長は、第3号議案について事務局に説明を求め、及川事務局次長が説明した。

議長が、第3号議案について質問、意見を求めたが、特に発言はなく、この賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを可決した。

第4号議案「令和4年度第2回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について」

議長は、第4号議案について事務局に説明を求め、及川事務局次長が説明した。

議長が、第4号議案について質問、意見を求めたが、特に発言はなく、この賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを可決した。

①開催日時 令和5年1月31日（火）午後1時30分から

②開催場所 盛岡地区合同庁舎 医療局会議室

③議事に付すべき事項

・令和5年度事業計画及び収支予算について

議案質疑が終了し、その他として理事から発言があった。

【熊谷理事】

さんりく基金独自の関係ではないが、三陸復興のためには観光振興が非常に大事ということで、一点考えを。ニューヨークタイムズ紙「2023年に行くべき52箇所」で盛岡市が2番目に選ばれた。三陸ずばりではないが、県としてこういう機会を少しでも多く活用しないとまらないのかなと考える。例えば、八幡平市に開校したハロウィンターナショナルスクール安比校のように注目されるものが非常にある。

特に来年度は陸前高田市で全国植樹祭もあり、そういうものを活用して県全体から三陸地域に展開できるような仕組みで、その一端をさんりく基金でどこか担えれば良いと思うので、そういう意識を皆さんと共有して進めていければと考える。

【八重樫代表理事】

ニューヨークタイムズの記事については、住んでいる人には気付かないことが書かれてあり、やはり、よそからの目が大事だと考える。もう1つ、釜石市が「持続可能な観光地トップ100選」に選ばれている。みちのく潮風トレイル等が評価され、2018年から5年連続で選出されている。今年は陸前高田市で植樹祭もあり、今も津波伝承館に多くの観光客が来ていただいているが、そこからどうやって三陸につなげるか。また、宮古へのクルーズ船寄港について、港から1時間半以内の範囲なら立ち寄れるということで、

盛岡宮古道路が開通したことにより、盛岡さんさ踊りを見に行く予定となっている。クルーズ船のお客様の声としては、三陸鉄道に乗ってみたいという要望が多いらしい。そういうことも含め、さんりく基金では観光の発信を行っているので、資源をしっかり捉えてやっていきたい。

【松田理事】

自宅が関東にあるため、東北のニュースが流れると興味深く見るが、岩手県内でも温度差があって、よく耳にする地域とそうでない地域がある。発信すべき情報があるかどうかとも重要だが、発信の仕方を考えないといけない。三陸は一つのブランドであり、もっと国内や海外に向けて、発信する術を工夫していく必要があると考える。沿岸だと三陸鉄道が取り上げられることが多いが、他にも発信すべき情報もあり、発信の仕方も工夫するべきかと考える。SNSは若い世代にとってはいい発信源であるが、お年寄りには紙媒体で情報を取得することが多い。いろんな年代に向けてあの手この手で情報発信が必要。また、宮古クルーズ船の話が出たが、海外の人から、宮古と盛岡の間に何もなくバスに乗りっぱなしという声を聞く。間をつなぐ拠点があれば色々楽しむことができるが、移動するだけになってしまっていて、今後何か工夫が必要かと考える。

もう1点、調査研究事業について、随分システムを変えてはきたが、まだまだ水産に大きくウエイトが置かれている。観光、若い世代の定着、女性の人口流出対策等、色々な課題があるはずだが、こういった課題を調査研究事業で取り上げられない。そもそも応募がないというのもあるが、社会科学の部門などの研究も伸びてほしい。色々課題がある地域であるので、今後は色々な研究が充実できればいい。

【八重樫代表理事】

インバウンドの関係では、現在、花巻ー台湾定期便の運航が新型コロナウイルス対策の関係で運休している。昨年、台北に定期便の再開要望に行った際に、台湾の方は、岩手が魅力的な観光の行先になっているとの話を伺った。中でも三陸海岸の景観は驚くという。台湾の場合は、YouTube の情報を見てどこに行くか考えるということだったので、運航再開を踏まえて、県では台湾のインフルエンサーを呼んで YouTube で発信する取組も行っている。松田理事もおっしゃったとおり、どういう情報発信がケースバイケースで有効なのかしっかり考えながら取り組んでいきたい。

【石川理事】

三陸鉄道の取組についてお話したい。2023年度は朝ドラ「あまちゃん」放送から10周年ということで、民間から支援頂き、あまちゃんのラッピング列車が1年間走る予定。また、震災学習列車は学校中心に人気を頂いており、引き続き利用者を伸ばしていきたい。

また、情報発信については、マスコミで取り上げられる情報量が少なくなってきた。SNSやネットだけではなく、テレビや映画などの影響力も感じているところであり、いろんな形で頑張っていければ。三陸地域の様々な団体と連携しながら地域の活性化につなげていきたい。

以上をもって議事の全部の審議及び報告等を終了したので、議長は午後 2 時 55 分閉会を宣し、解散した。